

第 21 回通信衛星システム国際会議(ICSSC-21)昼食会  
受賞スピーチ

(2003 年 4 月 17 日開催)

JSAT 株式会社  
代表取締役 CEO  
吉田 俣也

お集まりの皆さま、この度は、米国航空宇宙学会(AIAA)から栄えある賞をお受けする機会を得ましたことに心から感謝申し上げます。私の業績をかくも高く評価していただき、身に余る光栄と思っております。

7 年前、私が JSAT の代表取締役社長に就任しました時には、JSAT は衛星を 3 機保有する小規模なリージョナルオペレーターにすぎませんでした。その当時、衛星デジタル多チャンネル放送サービスは開始されたばかりで、日本においては、日本デジタル放送サービス(株)による「パーフェク TV !」が当社および大手商社数社によって設立されたばかりでした。数ヵ月後、ニュース・コーポレーションのルパート・マードック氏とソフトバンクの孫正義氏によって、競合する「スカイサービス」(ジェイ・スカイ・ビー(株))が設立されたことで、私は、難しい交渉を進めることになりました。交渉の結果、「パーフェク TV !」と「スカイサービス」は両社を統合するという合意にこぎつけ、現在の「スカイパーフェク TV !」設立に至ったのです。一方、今日では、私どもの衛星フリートは 8 機に増え、事業規模も拡大いたしました。そして「スカイパーフェク TV !」は約 300 チャンネルを擁し、会員数も 340 万世帯となっております。

私に課されたもうひとつの重要な役割は NTT とのアライアンスでした。NTT は当社設立当初より最大のお客さまでしたが、私が NTT とのアライアンスで目指したものは、お互いを最高のパートナーとして認め、新しい関係を築くことでした。結果として、JSAT は NTT から当時保有していた N-STARa および N-STARb の 2 機の衛星を譲り受け、NTT が JSAT の株式を保有するという関係を築くことになり、現在も両社は継続して関係を深めております。

さらに当社は 2000 年 8 月に株式の新規公開を果たし、東京証券株式市場第一部に上場いたしました。公募価格の二倍を上回る初値で市場から迎えられ、安堵とともに責任を感じたことを、今でもはっきりと記憶しています。

この上場の際に、当社では、「JSAT, Expanding Horizons」という新しいスローガンを掲げました。この Horizons という言葉は二つのことを意味しています。ひとつは文字通り地理的な拡大、つまりリージョナルオペレーターから世界的なグローバルオペレーターになりたいと

いう当社の地理的拡大の抱負を表します。2001年8月、当社はパンナムサット社とジョイントベンチャー設立で合意し、アメリカ大陸全域をカバーする新衛星 Horizon-1 を西経 127° に打ち上げることになっています。これにより、他社の衛星を経由することなく JSAT の衛星によって、ニューヨークヤンキースで活躍する松井秀喜選手の映像を日本に送り届けることが可能になります。

ふたつめは事業の拡大を示すものです。概して今日の衛星ビジネスの事業環境は、光ファイバーや ADSL 通信ネットワークの発達で急速な価格の下落が進んだために、衛星メーカー、打ち上げ業者、オペレーターの内いずれにとっても利益を出しやすい状況ではありません。このような、課題はありますが、イラク戦争に見られたように、現地から時々刻々と送られる生の報道映像に対する需要をみれば、衛星放送がいかに生活に欠かせないものとなっているかがわかりいただけるのではないのでしょうか。衛星の持つ特長をうまく使いこなすことによって、衛星通信は他の何よりも格段に勝る通信手段であると考えます。

最後になりますが、私は今後も JSAT が領域を拡大し続けていくことを確信いたしております。

ご清聴ありがとうございました。